確認欄	部会長	事務局長	副事務局長

【資料３－１】

開催日：令和３年６月２３日 (13:30～14:55)
開催場所：香南市役所６階 604,605 会議室

第１回　幼年就学期部会報告書

（R２年度実績（KPI 評価）とR３年度部会テーマ「子どもと親の居場所づくり＋」について）

◇ 部会委員　◎部会長　○副部会長

	役職	氏　名	所　属	出欠
1	◎	中脇　正人	野市小放課後子ども教室 教育活動推進員	出
2	○	武田　了子	夜須保育所 所長	出
3	◇	前田　真衣	香南市社会福祉協議会 職員	出
4	◇	竹倉　美智	香南市民生委員児童委員協議会 主任児童委員	出
5	◇	中元　啓惠	香南市教育委員会 教育委員	出
6	◇	別役　三省	香南市 PTA 連絡協議会 会長	欠
7	◇	貞弘　愛	赤岡保育所 保護者	出
8	◇	藤田　優子	城山高校 校長	出
9	◇	山岡　大二	野市小学校 校長	出
10	◇	尾知　智美	子育てサークル まざあぐうす 代表	出
11	◇	小松　伸子	総合子育て支援センター「にこなん」所長	欠
＊ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ		坂本 ひとみ	産臨介事務所 主任研究員	出

10名

◇事務局 ◎事務局長　○副事務局長

	役職	氏　名	課　名	出欠
1	◎	前川　浩文	こども課	出
2	○	三木　守	学校教育課	出
3	◇	國松　士晃	こども課	出
4	◇	坂本　充子	学校教育課	出
5	◇	本田　靖彦	生涯学習課	出
6	◇	竹村　桂子	健康対策課	出
7	◇	名倉　海子	福祉事務所	欠
8	◇	恒光　フミ	市民保険課	出
9	◇	田渕　浩平	人権課	出
10	総括	岩田　由子	地域支援課	欠
11	〃	黒岩　和代	〃	出
12	〃	西岡 亜希子	〃	出

10名

☆幼年就学期部会の開催内容（主な資料は事前送付済み）
・開会
・自己紹介
・内容
　１．委員委嘱及び部会長の選出について　→部会長は中脇正人
　２．令和２年度実績（ＫＰＩ評価）について(資料 1)　※修正資料あり
　３．令和３年度の部会テーマ「子どもと親の居場所づくり＋（プラス)」について(資料 2-1)
・閉会

１．部会長の選出

令和２年度に引き続き部会長は中脇正人委員

2. 令和２年度実績（ＫＰＩ評価）に対して出された意見

（資料は、令和２年度 香南市人生支援計画数値目標及び KPI 評価書（資料 1））
・コロナの影響を受けている割には良い数値がでているのではないか。
・NO.16「児童クラブの利用者数」の柔軟な運営を図るため民営化を検討するとは具体的にどんな

ことか、また民営化はどういう面が変わるのか。開設時間か。

→現在、児童クラブは公営９、民営２。給与面は３年度から合わせたが、公営は会計年度任用職員規定等で、勤務する時間数、処遇面など細かい定めがあり、支援員の確保につながらない要因にもなっている。例えば働く時間を４時間だけではなく５時間での業務を設けるとか、もっと柔軟に対応できる手法として民営化を検討中。まだ決定ではなく、保護者や支援員さんの理解を得てから進めることになる。開設時間も今後の検討課題。

・NO.9「こうなんファミリーサポートセンター会員数」は、目標９０人に対し実績１０２人。NO.16「児童クラブの利用者数」も、目標３８５人に対し実績３９７人なのでA評価では。

→NO.9は、「おねがい会員」と「まかせて会員」の合計数は目標値を上回っているが、事業の肝となる「まかせて会員」の増加数が「おねがい会員」と比べて少ない。全会員数は伸びても、「おねがい会員」だけが極端に増えると支援の手が全然足らないことになるので、その懸念も含め担当者の思いとしてB評価にした。NO.16は、入会希望者が多かった児童クラブで定員以上に受入れし目標値以上になったが、野市小、佐古小、香我美小で待機児童が生じたためB評価にした。

・NO.15「夏休みこども教室の開催」は、コロナの影響で中止になったが、今年も何もなしというのはどうか、何かできる方法で予定していないのか。やむなく規模縮小とかいろいろあるかと思うが、中止してしまうと結局歩みを止めてしまうことになる。どんな形でもやり方、方法を変えて、やらなかったということにならないようにぜひ頑張っていただきたい。

→生涯学習課ではいろいろな事業･行事を行っているが、基本的に去年同様ではなく、実施していく、コロナ禍でも取り組んでいく方向で準備している。

３．令和３年度の部会テーマに対して出された意見

（資料は、令和３年度 実施状況について(資料 2-1)、事前質問に対する資料、
子どもの遊び場確保事業及び子育ておでかけスポットの商工観光課チラシ）

① 保育等の受入態勢

・保育園の会でどこども保育士や支援をしていただける方の確保に苦労されていると聞いた。児童クラブの日誌を見ても大変苦労されていることがわかる。学校現場でも特別な支援が必要な子ども、またそこまでの支援は必要ではないけれどサポートのいる子どももいる。そういったところで専門的な知識とか技能を持たれた方を学童の方でもうまく活用できるようになれば、いろんな子どもが気持ちよく過ごせるようになるのではないか。

・城山高校は半数くらいが香南市の生徒。地域の方に助けられ地域で育ててもらっているので、地域に貢献できるように育ってほしい。保育士になりたい子どももいるので、そういった子どもが地域に貢献できて、子ども達を育てていってくれたらいいなと思う。

・児童クラブでは、ちょっと特性のあるお子さんも一緒に過ごしているのでよくトラブルが起き、支援員等から様子を見に来てほしいとの依頼がスクールソーシャルワーカーによく来る。小学校とか保育所･幼稚園ではいきいき香南っ子相談とかで専門の方にアドバイスをいただいたり、こうやったらいいよと具体的にＳＴの方から方法を教えてもらうこともできるが、児童クラブはそういう支援や相談先がないというところで支援員は困っている。保育所に配置されている支援員にアドバイスをもらうとか、こども課の特別支援アドバイザーを活用して相談･対応できないか。

・実際に特性のある子はいる。ベテランになれば対応を心得ているが、新しく担当になった方とかは面食らってしまうかもしれない。そういう面での支援体制が向上すれば人も辞めないでいてくれるのかなと思う。

② 公園の整備・周知

・公園はあっても、遊びに行かせたい、利用したいと思う公園が少ない。子どもはよく転ぶのでセメント敷の公園には連れて行きづらいし、駐車場がない公園も行きづらい。そのため、のいち動物公園をよく利用させてもらっているが、今回、入園パスポートをいただけたのは非常にありがたかった。他にも公園の整備をもう少ししていただきたい。

・のいち動物公園の入園パスポートは嬉しかった。すごくありがたく、お礼を言える機会があって良かった。初日に貰いに行って、週２回くらい行っている。子どもは道路とかすぐ走っていってしまうが、公園内だったら絶対に車も来ないので安全。公園があるだけでありがたいが、近所では、草がぼうぼうのところと、草は刈られているがその草が固くて危ないので遊ばせにくい。また、手洗い場があると助かると思う反面、汚そうでちょっと使いたくないところもある。

・空港のトリム公園は小学生くらいの子どもが遊べるところと、小さい子どもが遊べるところがある。小さい子どもが遊べるところには、前カバーのあるブランコが設置されていてすごく安全だなと思うので、そういう遊具がたくさんできたらいいと思う。少し危険を伴うかもしれないが、噴水とか、夏場に子どもたちがチャプチャプと溺れない程度に遊べる水場があればいい。

・公園の遊具の側に木でもあれば、横で大人が木陰でぼーっとしながら過ごせる。

・香南市子育ておでかけスポットのチラシに赤岡町がなくさみしい。赤岡は何かないのか。
→本年度、子育てガイドブックや香南キッズサイトをリニューアルし、盛り込む。

③ 朝食の摂取

・育休中など仕事を休んでいるとちゃんと作れているが、仕事が始まったら、どれだけレシピが紹介されても見る時間もない。どうしようかといろいろ考えさせられる。
→ユーチューブでレシピ紹介しているのでぜひ見ていただきたい。１メニューの動画の長さはすごく短く、材料も多くなく手に入りやすいもので簡単にできる内容で、見やすいと思う。

・保育所ではお便りで紹介したり、食改さんに来てもらい食育劇をしたりとか、食べることの大切さを伝えている。実際に好物だけを食べさせていた方が、朝食がすごく大事ということに気付いていただけた方もいる。仕事をされている方や子育て中の方は大変だと思うが、ちゃっちゃと短時間でできるとか、前の晩に作っておけるとか、そういう工夫が必要かなと思う。

・最近は男性の方も一緒に家事をされる方も増えてきた。城山高校にはホームルーム部といって調理とか家庭科の部があるが、男子生徒ばかりでやっている。今後は時代もそういう風になっていくのかなと思っている。

・保育園･幼稚園･乳児の時から、朝起きて活動の前にちゃんと食べるということが習慣づいていないと、大きくなっても何を食べたらいいかわからない。起き抜けでお腹が空いていないし、そのまま学校にいくと朝から眠くなるという悪いサイクルになる。啓発しても、やっぱり朝食摂取率って目に見えてぐっとあがってきたなという風にはならないんだなと、しみじみ思った。

・本年度取り組みにユーチューブとかでメニューを発信する取り組みがあるが、GIGA スクール構想の一人一台端末を活用して動画を見られたらいい。５年生から朝食づくりを調理実習でやるので、家に端末を持って帰る機会に家で動画を見て自分で作ることも可能ではないか。
→学校でユーチューブを見せることはできるが、端末を自宅へ持ち帰れるのかが課題。

＊高校生･大学生対象のワークショップで、大事な価値観を８０の中から５つだけ選びなさいというゲームをするが、５つの中に「家庭との両立」を選ぶ男子学生が、この５．６年顕著に増えてきている。女子学生は「家庭との両立」は５つの選択の中に入っておらず、たぶん女性は家庭と両立しなければならないというのがあるので価値観から省かれているのだと思うが、男子学生の中で非常に増えてきているのが最近の特徴。そういう意識変化も見越した啓発や対策が必要。

④ その他

【挨拶・コミュニケーション】

・横断歩道を渡った後に止まって車にお礼をしてくれるとか、登下校の挨拶に対して最近お褒めの言葉を良くいただく(野市小)。その辺をもっとうまく伸ばしてあげることはできないか。学校に限らず、例えば市をあげて、この日は大人が横断歩道に立って、交通安全も大事ですが、挨拶をして、子どもに挨拶を返すチャンスというか、褒めてあげる機会をいっぱい作ってあげる、香南市って挨拶であふれる街だねというような、手軽にできる取り組みの一つだと思う。

・あいさつ運動はいい提案。野市小の放課後教室でも、非常に落ち着いている。いじめ問題とかがあっても話し合いをしようってなるし、すごく教育ができているな、ありがたいなと思う。

・挨拶をもっと伸ばせていけたらいいなと思う。地域住民との話でも、子どもたちに挨拶をしていいのか、気軽に声をかけていいのかわからないらしく、日を決めて挨拶できればいいと思う。

＊宮古島の来間島の小学校の壁一面に「笑顔あいさつ朝ごはん」という大きな看板が出ていて、通っただけですぐ目につくし、この学校は「笑顔あいさつ朝ごはん」をテーマにしているんだなということが分かり易い。目に見せるということも一つ大事なことなんだなと感じた。

＊いろんな大学の学食に行くが、皆なご飯食べながら携帯をつついているため、昔と違って学食が非常に静かなのに違和感を感じるし、非常に残念だなと思う。小学生の頃から、挨拶とかコミュニケーションを学ぶが、小・中・高とつながっていったらいいんじゃないかなと感じている。

＊(県外事例)その辺のお母さんとか参加している近所のおばちゃんとかが、自転車のカゴに「地域見守りパトロール中」の看板を貼って行ったり来たりしているだけでも地域は心強いのではないか。非常におもしろい取り組み。やれることはいっぱいあると思うので、子育てしやすい地域ということでこんな取り組みもいいのではないか。

【一人一台端末（GIGA スクール構想）】

・一人一台端末を活かし、あるものを組み合わせる、こことここがリンクして新しいことができるようにならないのかなと思う。
→自宅への端末の持ち帰りは、移動時の故障リスク、自宅でのネット環境、通信費用など、多くの課題がある。子ども達が家庭で何時間活用する場面があるか見極めてから活用できる環境を与えることができるとの認識だが、まだ見切れていないのが実態。

・ネット環境が整わない課題もあるが、オフラインで、端末にあらかじめ入れておくこともできる。端末を家に持って帰れなくても、学校でユーチューブを見る時間、せっかく朝食のレシピがある、５、６年生なら作れるというのなら時間を設けて子ども達に発信していければいい。

＊ユーチューブとか一人一台端末で何かできないかということですが、端末はハードルが高くても今ある香南ケーブルテレビで放映できないか。それも家庭に情報が行きつく一つの方法。

【坂本ファシリテータ-による総括】

＊出生率は、10 年後 20 年後、明らかに減っていく。幼年就学期部会では、今日明日のことではなくて３年後５年後確実に減っていく人数のためにどうしなければならないかということと、どう増やしていかなければならないかということを同時に考える政策を提言していかなければならないと改めて思う。

＊コロナをきっかけに、環境変化があり働き方を変えることも可能。例えば、ＪＡと肥料や害虫などの相談を LINE のやり取りでできる。世の中自体が非常に進んでいて、私たちも困ったときはオンラインでとかメールでとか対面でなくても相談できる、子育ての不安も解消できる方法はいくらでもあると思うので、それをいかに早く対応していかなければならないのかを考えなければいけない。

＊人生支援の取組は毎年バージョンアップして良いものができている。たとえばのいち動物公園の件は地域の特性を生かした取り組みになっている。

【資料３－２】

開催日：令和３年６月30日 （水）

確認欄	部会長	事務局長	副事務局長

第１回　成年熟年期部会報告書

（R2年度の取組（実績・課題）とR3年度の取組について）

◇ 部会委員　◎部会長　〇副部会長

	役職	氏　名	所　属	出欠
1	◎	川田　勲	香南市スポーツ推進審議会	出
2	〇	百田　久範	青少年育成香南市民会議	出
3		坂下　真人	高知県小中学校ＰＴＡ連合会	出
4		村井　洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5		北村　大河	高知県障害者スポーツセンター	出
6		吉岡　潤	高知県人権啓発センター	出
7		白石　令子	香南市社会福祉協議会	出
8		大庭　静子	食生活改善推進協議会	欠
9		飯島　信也	移住者（グラフィックデザイナー）	出
10		西内　慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	欠
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ		池添　佳代	こうち男女共同参画センター	出

９名

◇事務局 ◎事務局長　〇副事務局長

	役職	氏　名	課　名	出欠
1	◎	猪原　加江	生涯学習課	出
2	〇	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3		岩佐　和子	〃	欠
4		山﨑　正博	生涯学習課	出
5		岡田　真樹	〃	出
6		小松　寿美	〃	出
7		福井　理加	福祉事務所	出
8		田中　彰裕	人権課	出
9		浜田　悦秀	商工観光課	出
10		田中　菜生	〃	出
11		岩田　由子	地域支援課	出
12		黒岩　和代	〃	出
13		西岡亜希子	〃	出

12名

☆成年熟年期部会の開催内容

・開　　会
・自己紹介及び部会長・副部会長の選出について
・議　　題
　① R2実績KPI評価書＆指標一覧について
　② R3年度 実施状況【成年熟年期部会】及び深掘りついて
　③ ファシリテーターまとめ
　④ 今後のスケジュール等の確認
・閉　　会

1.令和２年度の取組（実績・課題）に対して出された意見

①コロナ禍の中、集団健診によるリスクのため実績は振わなかったのは納得できる。
医療機関は退勤以降に受診できるので、個別健診を推進していくのが良いのではないか。

（健康対策課）　⇒　今年度は感染対策を取りつつ積極的に健診の案内を行っている。コロナで受診を控えている人が多いため、早期がんの発見が遅れることが危惧されている。
個別健診の推進については、女性の子宮・乳腺がん検診については若いターゲット層を個別健診の方に案内する取組みを今年度から行っている。特定健診もできる限り個別健診の方に呼び込むように啓発を行っていく。

②市民は歯科健診（口腔衛生）に対する意識が薄いように感じるが、80 歳で 8020 運動のハードルを下げるために、積極的に展開してはどうか。
（健康対策課）　⇒　歯科健診については、県は 40 歳以上を対象としているが、市では 30 歳から 10 歳刻みで歯科健診の案内を出している。昨年はコロナで延び悩んでいる。周知は徹底していく。その他に、妊婦歯科健診を実施している。いろいろな世代で歯の重要性について啓発していく。

③健康増進について、駅ピアノならぬ駅運動として駅の一角に運動器具を置くのはどうか。
（地域支援課）　⇒　公共交通と健康を結びつけることができれば良いと考えるが、現状では難しい。

④結婚新生活支援制度について、年齢制限があるが、昨今は晩婚化なのに年齢制限の必要性はあるのか。低所得者への生活支援について最初の１年間は毎月の支援はできないか。
（地域支援課）　⇒　この制度の目的は、低所得者への生活支援ではなく少子対策である。国の制度に従って実施されており、年齢制限、所得制限が設定されている。

⑤骨折等突発的な疾病で一時的に生活困難になった方への生活介助はあるのか？
（福祉事務所）　⇒　65 歳以上を対象とした軽度な家事援助の支援はある。シルバー人材センターで少額の家事援助事業があるので 65 歳までの方から相談があった場合は、繋げていきたい。社会福祉協議会でも歩行困難になったときに車いすの貸出しや、一時的に生活が困窮した場合は少額な貸付制度もあるのでそちらに繋げてくように考えている。

⑥「障害者」の表現を変えて「困難者」にしてはどうか。
（福祉事務所）⇒　以前から障害者の害の字が不快感を与えて好ましくないなどの意見があるが、国の法律や条令の記載も有り、現状では変更できない。

⑦「生理の貧困」が国会でも顕著になってきた。市として具体的な施策は？
（福祉事務所）　⇒　女性や家庭の支援事業を行っている関係各課の日々の活動の中で、生活実態に留意しながら女性や家庭の困りごとの把握に努めている。その中で生理用品に限らず支援していくものがあれば、支援していきたいと考えている。

⑧ №52「地域活性化総合補助金活用自治会数」の目標値が、R2 が 90、R3 が 93 となっているが、95 自治会で 100％なら最初から目標値は 95 でいいのではないか。
（地域支援課）　⇒　年間目標を設定して実施している。この指標に限らずＫＰＩ評価は段階的な目標値を設定している。

2.令和３年度の取組に対して出された意見

議　題②　R3 年度 実施状況【成年熟年期部会】及び深掘りについて

第１のテーマ「人権啓発」について

【人権課からR３年度今後の取組み等について説明】

今年度の取組み方針は、「障害者」の人権として市民向けの研修会を開催する予定。

「人権啓発」について質疑

（委員）

「課題対応型」から「原理原則型」へ

何か問題が起こったから対応するではなく、いろんな人権課題に対して共通して自分たちが待たなければならない認識、それを啓発するためにどうしていくべきか。その中身について、考えていく必要がある。

人権そのものについて、市民の方の考え方をどういう方向にもっていくべきなのかについて、一定考えていくべきではないか。

（委員）

「障害のある方の人権」と考えたとき、自分は非常にフラットな付き合いをしており、あまり意識したことがない。スポーツを通じて障害のある方が幸せに楽しく生きている姿をたくさん見てきている。その姿を、どのように社会に伝えていくのかを自分の中でテーマにしている。今回のパラリンピックもそういったところなのかなと思いながら、幸せに生きている・楽しく生きていることが、すごく大事な人権の視点だと思っている。

もう一つは、障害のある方自身が何かしてもらうだけの存在ではなく、地域の中、社会の中で自分の役割は何なのかと考えていくことが必要。もっと小さいところ、家庭ひとつをとっても、自分の存在価値、役割があると思う。そこを大事にしていくことが一人ひとりの人権に繋がることだと思う。

（人権課長）

香南市には、障害者などの１０の人権課題がある。「誰もが自分らしく生きることができるまちづくりをめざして」これからも取り組んでいきたいと考えている。

第２のテーマ「移住促進」について

【地域支援課からR３年度今後の取組み等について説明】

今後、移住者の視点・立場で、移住者が移住者を呼び込むようなことも実施していく。

移住者交流会の開催等、移住後のアフターフォローに取り組む。

「移住促進」について質疑

（委員）移住者の立場として

メリット…空港から近く、高知県の中心地、東西への行動がしやすい。

デメリット…子どもが楽しめる場所、特に雨の日に子どもが身体を動かせる場所がない。

移住にあたり感じたことは、①移住前に引越し代などの費用が掛かる。②都会では車が必要なかったが、高知では必要なので購入した。購入まで時間が掛かったので、その時にリースなどのサポートがあればいいと感じた。③空家バンクの制度を知って助かった。

香南市のホームページに移住に関する内容を分かりやすくすぐにアクセスできるようにすればよいと思う。

（地域支援課長）
スムーズに移住に繋がるような仕組みや制度について、今後も検討していく。

（委員）
私も他のまちからの移住者で、その理由は地盤。地震に強い、災害が起こった時に持続可能な生活ができるところは何処か。調べたら香南市だった。そういった側面で移住されてきた方はいると思う。一方で、仕事がないと定住できないので、企業誘致など生産活動のできる現実的なものがないと難しい。
オーテピアのように県外・市外の方が来たいと思うような図書館があれば良い。文化的・教育的な施設があると、保護者や子どもはそこに集まってくる。

（部会長）
雨対策として子どもたちが集まれる施設の充実が図れれば良いと思う。
地域おこし協力隊の方々が住み着いて香南市はこんなに良いところがあるんだと情報発信をしてもらう。移住者は新しい移住者を生むことに支援をお願いすれば良いのでは。

（委員）
例えば半年間、別荘のような形、夏場又は冬場だけでもこちらに来てもらい、空家を利用し期間限定で定住をしてもらう。そういった使い勝手の良いものができたらよいと思う。

第３のテーマ「健康増進」について
【生涯学習課からR3 年度今後の取組み等について説明】
ウォーキング＆サイクリングで健康増進うち今年度重点施策として
自転車活用推進計画（案）について商工観光課より報告
（委員）健康増進の視点から
社会貢献として企業に健康器具を置いてもらうよう働きかけはできないものか。

（商工観光課長）
企業の社会貢献については、事業所との会など様々なところで話ができるようにしていきたい。

（委員）
サイクリングは景色のいいところに出かけてすると考えられるがウォーキングは基本的には何処かに出かけてではなく、玄関を出たときがスタート。ハード面となるが、ウォーキングで自分の家を出てから何百mごとに、距離が分かるような目印があればよいと思う。
愛媛県ではブルーラインが引かれていて、自転車のコースがあるがそういったキレイなコースではなく、何らかの指標があれば、そこまで行って今日は運動したと感じられる。
（例）買い物でスーパーへ行って帰ってきたら800m歩いたことになるなど、そういった日常生活の中に落とし込んでいくことが大事だと思う。
市道などに公民館などの公共施設から距離（200mごと）に目印を付けることができないものか。　自分の歩いた距離が分かる「見える化」が大事である。

（委員）
昔、車いすラリーで車いすに乗り公道を走った経験がある。ウォーキングコースを作るにあたり、車いすの方でもしっかり通れる、休憩する場所があるなど、そのようなマップができれば良いと思う。
サイクリングをする場合、いろんな場所で自転車の貸出しができるのか。
（商工観光課）
サイクリングターミナルやのいち駅、アクトランド、赤岡町の神明自転車店で貸し出しを行っている。新設予定では道の駅やすの駅前広場で貸し出しができるようにしていく。

【 まとめ 】
（池添ファシリテーター）
① 歩いているまち筋（道路）にポイントを付けること。
ウォーキングやサイクリングをすでにしている方は大勢いると思う。その人たちも巻き込んでいくには、今の生活に何らかの接点ができるということが大事だと思う。日常で何気なく歩いていたところにポイントがあることで、日頃歩いている距離が分かるということは、住民の方が関心を持ってくれるのに良い点だと感じた。

② 文化の教育は長期的な展望が大切であること。
文化施設というものは、建物だけではなくて、どんな方が、どのようなことをするか、どのような出会いがあるか、これが文化に繋がっていくこと。そういうところに種をまくことが大事である。

③ ウォーキングやサイクリング大会を開催する場合、対象となる方をどのように捉えるか。が肝心である。交流も大事だが、同じペースで歩ける仲間を見つけることも大事。

④ テーマの「楽しく暮らす」ということも、人それぞれ感じ方が違うなかで最終的に健康を目指すなら、いろんなパターン・いろんな方を対象にいわゆる多様性に沿った形で考えていくべきである。
例えば、オリエンテーリング（専用の地図を使ってチェックポイントを回りながらできるだけ短時間でゴールするスポーツ）で歩きながら、自転車に乗りながら、ポイントで少し人権のことも考える内容を含むなど、複合的な仕掛けをすることも考えていくべきである。

⑤ ソーレができて 20 年が経つが、当初ＤＶへの対応は逃げるか諦めるか、二者択一のようなことが多かったが、最近は中間であなたはどうしたいのかという視点にたって支援方法を探るように変わってきている。あらゆる人権の課題も、時代によって少しずつとらえ方も違ってくる。「楽しく幸せに生きている姿をお互いに見せ合う」このことが心の健康も含めた健康の姿だと学べた。

⑥ 新型コロナについては、保育士も親もマスクを着けており表情がわかりにくい中で大きくなった子どもが、人の表情を自然に読んだり、自分の表情で相手に伝えることが難しくなるのではないかといわれている。これからいろんなところで問題が生まれてきそうである。

閉　会

【資料３－３】

高齢期部会 開催日：令和３年６月３０日（木）

令和３年度 第１回 高齢期部会報告書

（Ｒ２年度の取組（実績・課題）とＲ３年度の取組について）

＜部会委員＞ ◎部会長　〇副部会長

	役職	氏　名	所　属	出欠
1	◎	小松　健一	香南市社会福祉協議会 会長	出
2	〇	福井　清仁	民生児童委員会　代表	出
3		大谷　修二	高齢者クラブ　代表	欠
4		岡本　八重子	第１号被保険者代表	出
5		矢野　由美子	第２号被保険者代表	出
6		名倉　恵子	サービス支援員代表	出
7		福永　康夫	夜須町民生児童委員協議会	出
8		近森　孝章	シルバー人材センター	出
9		吉田　和	香美人権擁護委員協議会	出
10		横山　郁夫	生活支援コーディネーター	出

９名

◎事務局長　〇副事務局長　◇事務局員

	役職	氏　名	課　名	出欠
1	◎	都築　敏夫	高齢者介護課	出
2	〇	西内　淳	福祉事務所	出
3	◇	弘田　満紀	高齢者介護課	出
4	◇	松田　洋彰	福祉事務所	出
5	◇	岡本　修	環境対策課	出
6	◇	半田　貞仁	生涯学習課	出
7	◇	福井　智歩	健康対策課	欠
8	◇	藤田　安子	人権課	出
9	◇	宮﨑　遼	地域支援課	出

8名

☆高齢期部会の開催内容

・開　会

・自己紹介

・内　容

１）人生支援計画について　【参考資料】

２）令和２年度の実績について

１．R2 実績・評価及び、R3 以降の数値目標　【資料１：KPI 評価書 P.15～17】

２．新施策並びに拡充事業について（R2 事業実績、R3 新規･拡充事業）

【資料２：テーマ高齢者の生活支援】

３）令和３年度の取り組みについて

１．部会での協議内容　【資料４：R3実施状況】

２．年間スケジュール　【資料５：スケジュール案】

・閉　会

１）人生支援計画について

〇 ３名の部会委員の交代もあったため、「人生支援計画」について、地域支援課から改めて説明をおこなった。

⇒ 質問・意見等はなし

２）令和２年度の実績について

１．R2 実績・評価及び、R3 以降の数値目標について

資料１『令和２年度香南市人生支援計画数値目標及び KPI 評価書』P.15～17

〇 R2 評価は、A－１件、B－７件、C－３件、＊－１件。

〇 R３以降の計画、数値目標について

⇒（部会長）：意見総括

コロナの影響によりＢ、Ｃ評価が多くなっている点について、しっかり対策を講じて影響を受けてもできることをコツコツ行うことが大切と思う。

いきいき事業など、後継者が育ちにくい課題に対して、やり易いようにＤＶＤの配布等に取り組んでくれているが、地域活動は低迷しているので、計画にもあげている指導員の派遣や紹介等、まめに取り組んでほしい。

新しい団体をつくるのは、話し合いから始めて時間も掛かり労力がいる。地域でせっかくできた団体を育てていくべきと考える。例えば、野市の民間の体操クラブには、多くの参加者があり、健康づくりは参加してもらいやすい。行政には活動しやすい環境づくりをお願いしたい。

２．新施策並びに拡充事業について（Ｒ２事業実績、Ｒ３新規･拡充事業）

資料２『令和２年度テーマ：高齢者の生活支援』

■ R2 新施策『市営バスお試しセットの配布』　担当課･･･地域支援課
■ R2 拡充事業『住民主体の移動支援の創出を支援（運転者養成講習）』　･･･高齢者介護課
■ R3 新規事業『高齢者可燃ごみ個別回収事業』　･･･環境対策課・高齢者介護課
■ R3 新規事業『高齢者の移動･外出支援の受け皿づくり』　･･･高齢者介護課
■ R3 拡充事業『医療機関送迎サービス事業』　･･･高齢者介護課

⇒ 質問・意見等はなし（詳細については、以下にて個別説明）

３）令和３年度の取り組みについて

１．協議内容

資料４『テーマ：高齢者の生活支援　Ｒ３年度 実施状況について』

引き続き【高齢者の生活支援】をテーマと、これまで部会で話し合われた内容を踏まえ、以下の支援策について深掘りを行う。

≪①：移動支援≫　　主体：高齢者介護課、地域支援課

★これまでの意見・課題･･･ 取組方法を考えないと、なかなか進まないと思う。

（高齢者介護課：担当説明）

移動支援に関しては、生活支援体制整備事業のなかで社協コーディネーター等と検討している。「200mの距離を歩いて会場まで行けなくなった。送迎があれば行けるのに」等の相談があり、デイサービスの車輌を活用、運転ボランティア１名を得て、約１年間、自主体操グループ(夜須：週１回)、いきいきクラブ(赤岡：月２回)の送迎を行った。

また、R2 は NPO さわやか高知（高知市の移動支援団体）主催で運転ボランティア養成講座を実施。１２名＋職員７名の参加があった。ボランティアが行うにあたっては、個別相談やニーズ対応のため知っておくべき制度も多い。間違った支援とならないように、ボランティアの中心的・繋ぎ役の移動支援コーディネーターとして９月から地域おこし協力隊員（介護業務の現場経験者）１名を雇用する予定。

⇒（委員）いきいき事業以外が利用したい場合、要件はあるか。

家族が送迎していたが、７０歳過ぎの家族から通うのを辞めてと言われ諦める者や、便乗で対応している者もいる。

⇒（担当）要件はないが、送迎ボランティア次第となる。（現状で受け手は１名）

⇒（ファシリテーター）利用できる距離等、線引きはどこまでとするか。

⇒（委員）西川地区だと 80、90 歳でも農作業や草刈りもできる元気な人が多いが、祝日等は市バスの時間も限られ移動支援は必要。近所が買い物行かん？と声掛け・助け合いがまだあるが、５年後、10 年後はわからない。

⇒（担当）生活支援事業や社協お買い物支援があり、移動販売も増えてきた。相談も介護予防に関することが多い印象がある。

⇒（社協）社協として地域に入るとどうしても足の問題がでてくるが、家族に遠慮する人が多い。更に余暇活動は頼みにくいと思う。ただ、予防に通うのに送迎が近すぎると意味がないのでコース設定を介護課と社協でしている。気づいた人が声掛けする地域の助け合いが１番と思う。

⇒（委員）同乗させることは、事故したらどうすると人から諫められた。ボランティア保険を定めてないと好意が大変なことになる。

尚、先日の民児協の定例会では、一般車輌も入れない所に住む人から緊急通報装置が設置されて、ワンタッチで協力員が来て対応してくれたと喜ぶ声をいただいた。

⇒（担当）緊急通報装置は高齢者福祉サービス事業のなかで行っている。身近で連絡手段の乏しい方がいたら情報をいただきたい。

⇒（担当）事故の保険については、移動支援で良く議論される点。団体向けには事故後も保険料の上がらないものもでてきたが個人向けはない。組織化や法人化と一体的に検討していくが、運営にあたっては、その他の縛りも多い。まずは、移動支援コーディネーターを中心にニーズや活動方法等について情報収集し、取り組みについて検討する。併せて民間事業所の参入も検討していきたい。

⇒（部会長）移動支援については、今結論は出にくいと思うので、協力隊員雇用による拡充に期待し、原案で進めていただきたい。

≪②：担い手の育成≫　　主体：高齢者介護課

★これまでの意見・課題･･･ 未設定（当会議で明確化する）

（高齢者介護課：担当説明）

高齢者福祉サービスの担い手が不足するなか、当施策は軽度生活援助事業の担い手の育成となる。簡単な家事援助についてシルバー人材センターに委託をしているが、派遣援助員が固定化して新たな人材確保が困難な状況。サービスの利用ができない、待たせしてしまうこと等があるため、R2 養成講座を実施するも改善していない。

また、センター登録者自体が減少、高齢化傾向にあるため、広報活動を支援する。

⇒（ファシリテーター）

登録者数の減少と、援助員が足りていない原因は、どのように把握している？

⇒（シルバー）

市の広報協力もあり、R2 は２１３名と現状維持ができた。全国的にはコロナ等もあって減少している。

生活支援援助員については、講習も行い登録数は増えたがキツいとの声。登録者自体が高齢者でもあり辞めていった。やりがい・生きがいを感じてくれる人が残る。

時給面は、移動時間がかかるうえ話し好きの方も多く、なかなか帰れなくなる現状があって割は悪い。収入だけなら農家に鞍替えする人もいる。ボランティア的な面を強調するしかない部分がある。

⇒（委員）　事業内容、料金設定について質問

⇒（担当、シルバー）

利用は１回１時間程度、月２回まで可。（内容によっては、月５回まで）

利用者の負担は２００円。派遣援助員の配分金としては８１５円を得る。

内容は、台所や風呂・トイレ・寝室等の清掃・拭き掃除が主。

⇒（委員）躊躇するようなゴミ屋敷？ 片付け程度？

⇒（シルバー）確かにダニに噛まれて市で駆除してもらったケースも有り。ビニール有料化でごみ量は2割程度減った印象はある。

⇒（委員）同じ人が同じ家を訪問？ 気心は知れるが、業者ではないので寄り添う形で家庭に入り込む大変さも出てくるのでは。親の世話や家事の経験がないと難しいかも。

⇒（ファシリテーター）

割が悪いうえ、作業内容に齟齬やギャップがあったら、今後募集しても解決しない。キツいとは具体的には？

⇒（担当）使命感を持って取り組むと、家具の安全移動等、責任感で逆に続かない例もある。

⇒（シルバー）

体力的にキツいと聞く。就労の観点として弱く、内容の周知不足と両面あると思う。まずはやってみてやりがいを感じた人に定着してもらうしかないが難しい。

⇒（委員）シルバー以外、個人等の担い手、若い人も候補となり得るのでは。

⇒（担当）ＮＰＯはどこも人手不足で委託は断られた。養成講座で知ってもらい見つけるしかない。

⇒（社協）佐川町では、定期の無料イベント「夏のお助け大作戦」があり、民生委員が要望

を集約し、若い人も町ぐるみで網戸張替え・ゴミ出し等に取り組んでいる。
⇒（委員）ボランティアの年齢層も上がり、周りの若い人も共働きが多い。かつて所要時間や報酬は聞けない風潮だったが、今は日程や時給を明示して求めるべきではないか。
⇒（ファシリテーター）
シルバー登録者のみでは限界がありそうなので広げる手立てが必要。大学には１０日以上の就労体験実習があるので活用してはどうか。
⇒（部会長）
社協では保険外のヘルパーが入る事業もある。本来は軽度な生活援助のはずなので、次回、各サービス資源の資料を持ち寄って、どういった方がどの部分に関わるのが良いかを整理したい。

≪③：ごみ出し支援≫　　主体：高齢者介護課、環境対策課
★これまでの意見・課題･･･ ゴミ集積所の増加や見直し等を検討
健康面で問題が出ないように支援策が必要
（高齢者介護課：担当説明）
R3 年５月から環境対策課と連携して『高齢者可燃ごみ戸別回収事業』を開始。
玄関先に出してある状態を回収。ごみ出しや排出量からも高齢者見守りを行う。
資料では、対象者４名とあるが、６月現在で６名が利用。予定とある利用促進の取組については、ケアマネ連絡会での周知や市広報及びホームページに掲載済み。
⇒（部会長）
従来の課題が前に進んだ感がある。要介護認定等の要件があり、回収時間の変更ができて、介護保険事業の従来ヘルパーで対応、充実できれば良いのだが。
⇒（担当）これまでも議論してきたが、朝８時迄にゴミを出さなければならないルールは変えられないし、それに対応できるヘルパーも不足している状況だった。
⇒（環境対策課）
可燃ごみについては、ごみステーションのルールや委託業者の問題、法や条例もあるなか派遣事業として成立できた。今後は可燃以外をどうするか、利用増加に伴う人材確保等の課題をどう事業にのせていくか。８週を経過し、量的には毎回 10kg 程度。
⇒（委員）介護認定が要件だと心配な面がある。
今後の利用は増えていくと思うが、無理に 100％な支援を進め過ぎないよう、都度に実態調査を行う方が良いと思う。
⇒（担当）プランセンターやケアマネへのアンケートでニーズ調査を R2 実施。特にニーズが高かった要介護認定者をまずは対象とした。課題であった『どこまで支援するか』については、ごみ出しが家族や地域との繋がりとなっていることが調査でわかり、手広く展開するとその辺が希薄になることに配慮した。
⇒（部会長）人生支援計画なので、要介護認定者に限らず、今後支援できればと考える。

２．年間スケジュールについて　　　資料５『スケジュール案』にて確認